

浜岡原発の地震・津波対策を視察

佐々木、井上議員ら

佐々木憲昭衆院議員と井上哲士参院議員は3日、4号機の来年秋以降の再稼働を目指し進む新規制基準対策工事中の中部電力浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）を視察し、中電側と質疑応答を行いました。

原子力館で説明を受けた後、発電所内に入り、防波壁（高さ22メートル、長さ1・6キロメートル）、取水槽、フィルターベントの工事現場などを視察。また、4号機原子炉建屋内には作業着に着替えて線量計を首に掛けて入り、ガラス越しに原子炉や使用済み燃料プー

ルなどを視察しました。その後、また着替えて、使用済み核燃料の乾式貯蔵施設建設予定地、高台（海抜40メートル）に造るガスタービン発電機建設現場など、2時間余り掛けて回りました。

岩盤隆起の質問に答えられず

防波壁について中電は、岩盤から立ち上げているから津波に耐えられると説明。佐々木氏が「東日本大震災では岩盤が7メートル動いたが、どうなのか」と質問すると「安全審査で検討されるものと思う」と答えるだけでした。

また、浜岡原発の使用済み核燃料については、現在、六ヶ所村への搬入は認められていません。佐々木氏が「仮にフル稼働した場合、施設内に作る貯蔵施設は何年で満杯になるのか」と質問しましたがまともに回答がありませんでした。

原発事故が起きたときの避難計画は、自治体がつくることになっていますが、できていません。御前崎市の人口密集地域が原発のすぐ近くにあり、3万人もの人々が狭い道路をどのようにして移動できるのか。原子力規制委員会の基準では24時間以内に避難し終えるとしていますが、民間団体の試算では30キロ圏内の人が避難するには最短でも63時間もかかります。

対策費は3千億円

ほかに、現在の従業員は約4千人（協力会社3千人を含む）で多くが安全対策工事に携わっていること、対策費の合計が3千億円であるなどの説明を受けました。



実物大の原子炉模型を見る(左から)佐々木、井上の両議員ら=3日、静岡県御前崎市・浜岡原子力館



視察にはもり大介（静岡市葵区）、ひらが高成（浜松市中区）、しもおく奈歩（愛知県豊橋市）の各県議候補や清水澄夫・御前崎市議、大石巖・静岡県吉田町議選候補、鈴木みさ子・愛知県豊橋市議選候補、笠井亮衆院議員秘書、岡村哲志静岡県委、東海ブロックからも同行しました。中電側は伊原一郎所長、小高敏浩保修部改良工事グループ主幹らが応対しました。

